

令和7年度 細田学園高等学校 学校自己評価システムシート (1/2)

目指す学校像	博く深い愛の心と、奉仕の精神を培い、勤勉で且つ努力を惜しまない習慣を身につけた誠実真摯な生徒を育成する。 併せて、学力の伸長と個性の啓発を図る。
重点目標 (番号)	1 現在の学力を最大限に伸ばすとともに、進学指導の充実を図る。 2 麗しく、健康で好ましい生活習慣を身に付けさせる。 3 異文化理解の促進と国際人としての資質を育成する。 4 頑健な身体と強靱な精神を育む。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割以上)

学校関係者評価(一同に会する意見交換等)	
(実施日)	令和8年6月16日
(出席者)	学校関係者評価委員5名 事務局(校長・教頭・事務長) 3名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (令和8年6月10日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	具体的方策の達成状況	達成度	令和8年度への課題及び改善策等
1	(1)年間行事予定の確実な実施	実施結果の状況	学力向上を目指した計画作成と周到な準備	年度当初に明示した年間行事予定に基づき、細部計画を作成した。収束してはいるが、引き続きコロナウイルス感染対策、またインフルエンザ感染対策に留意し、概ね実施できた。	A	更なる学力・人間力向上を目指し、課題等を分析し綿密な計画を作成するとともに、行事の精選を行う。欠席確認、行事連絡等さくら連絡網を活用する。
	(2)体系化されたコース別説明会の実施と進学指導	生徒の意欲 保護者の関心度向上	各コースの特徴と目的の明確化、卒業までを見通した体系的指導、LHR・総合を利用した進学指導、 長期休業中の講習を実施、これらをコースにあった内容で実施した。	長期休業中の講習、統一した模擬試験の実施、各大学への訪問、 キャリア教育をコースに合わせて実施、自ら学ぶ姿勢をもち、 社会の中で生きる力を身につけさせる指導ができた。	C	自己分析・未来研究の講座を開設するとともに、体系的・適時に進路ガイダンスを実施する。 また、模擬試験結果・分析を活用し、一般受験者合格者を増加させる。海外進学者も増加させる。
	(3)各コースの目的に合致した教育課程の編成	教科配分の状況	学力の向上と進路希望先を考慮した教科科目の適切な配分をする。	普通科特進H・特進・選抜G・L・進学αの各コースに適合した教育課程の編成ができた。	A	これまで同様入試対策を踏まえ、新設の特進Hコース理系をはじめコースの特徴を更に生かした対応を模索する。
	(4)ICT機器を導入した最新の授業を展開する	授業展開要領	共通テストの研究対策を以前から実施している。 思考・判断・表現力を身につける授業を展開する。 PC,タブレットを必要に応じて使用する。	各教科ごとに、生徒のためになる取り組みを実施した。 生徒は学習への興味関心が強まった。	A	生徒が自ら学ぶ意識を持ち、意欲的に授業参加できるような指導を構築する。 集中できない生徒をなくす。
	(5)家庭学習の習慣化	家庭学習の状況	各教科毎の課題付与と確認(添削) 小テストなど家庭で学習確認をし成績に大きく反映させる。	生徒の興味・関心を引き出す授業を展開し、家庭学習の意識を高めた(課題量等は教科間で調整できた)。	A	各教科の更なるレベルアップを目指し、 家庭学習の効果的導入を検討したい。
	(6)学習成績の向上	定期考査結果 模試結果	研究授業の充実による授業力の向上と内容の改善、 各教科間の連携強化。 進学実績の向上。 学校公開の実施。	管理職や各教科担当者の授業視察を数回実施し、改善点を指摘、問題点を各教科で共有した。その結果、生徒の意識を向上させ、学年末における成績不良者は激減した。 同様に模試の結果も前年を上回った。	B	各学期末に、成績不良の生徒が数名いたが、来年度は皆無となるよう指導を考える。
	(7)課外教育の充実	生徒の講座への取り組み	進学補習の内容の充実・長期休業中の講習を強化する。 POEC(オンライン英会話プログラム)をさらに活用する。	授業と連動させ、効率よく進めることができた。 自分が今どのレベルにいるのかを認識して、更なる努力を継続できる生徒が増加した。	B	対象範囲を拡張し、一般受験者を増加させる。 校外学習、学園祭等で活躍する生徒を増やす。
	(8)卒業生全員の進路決定	上級学校入学試験・採用試験の結果	担任と生徒・保護者との三者面談と進路指導の早期実施による進路先の意識付けをする。 コースごとに適合した指導をする。 場合によっては個別指導を行う。	令和6年度は、東大合格者を出した。その他国公立、最難関、難関私大への合格者を継続して輩出できた。また、一般受験からの合格者が増加した。コースの特徴を生かした進路実現が可能になった。海外進学者も増加した。 指定校推薦など、独自の選考方法でしっかりとできた。	A	各コースの特徴を生かした進路指導をする。 志望校等の決定時期を早めるとともに、 安易に決めることのないよう指導する。

学 校 関 係 者 評 価
(令和8年6月16日現在)
学校関係者の意見・要望・評価等
年間の行事予定を年度当初、学期初めにも配布してほしい。保護者のほとんどが仕事を持っているので、行事等の通知を早めにしてほしい。
生徒だけでなく保護者対象の進学や進路に関する説明会を実施してほしい。また、二者面談・三者面談を増やしてほしい。
更に大学入試対策を考慮した教科科目の配分を検討してもらいたい。
生徒が自ら積極的に学ぶ姿勢を持てるように魅力ある授業を、また生徒一人ひとり丁寧な対応をお願いしたい。PCで生徒が自分の成績推移などが確認できるとよい。
家庭学習が定着してきたようである。部活等で家庭学習の時間を確保できない生徒への指導助言をお願いしたい。
成績不良者が激減したのは良い。 また、定期考査の点数以外の平常点が成績に反映されるのもよい。 進学実績が上がったのはよかった。
長期休業中の講習実施期間をもっと多くしてほしい。入試や英検にPOECの成果が表れているようである。
進路先の選定に苦労したことがある。生徒が自分で決めていくことではあるが、担任や進路の先生のアドバイスが欠かせない。 保護者面談も希望で複数回できてよい。 東大合格者が続けて出たことは誇らしい。

令和7年度 細田学園高等学校 学校自己評価システムシート (2/2)

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (令和8年6月10日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	具体的方策の達成状況	達成度	令和8年度への課題及び改善策等
2	(1)遅刻防止	遅刻者数	遅刻統計結果の反映及びコース主任による指導 通学路・エントランス指導の徹底 5分前行動の励行	全体的には前年より減少している。 学年を超えて特定の生徒に偏りが見られるので、根気よく指導していくことが必要である。	A	改善が見られない一部の生徒に対する個別指導の徹底と、家庭との連携を図る。
	(2)退学者の減少	退学者数	生徒の心情把握、適時適切な生活指導及び カウンセリングの充実と教員による自由面談	生徒の意欲向上に比例して 転退学者数は減少している。	A	昨年度と同様に実施する。
	(3)端正な身だしなみの徹底	服装点検結果	服装・頭髪指導の実施(随時)及び生活指導強化 週間の設定(年2回)	概ね良好である。 服装・頭髪等で指導が必要な生徒が一部に見られた。	B	家庭との連絡を密にして、全教員で指導を徹底する。統一した指導をする。
	(4)奉仕活動(ボランティア)の促進	奉仕活動の状況	FDC未来探求等での社会貢献 クリスマス祝会での献金	FDCで生徒自身が未来探求するとともに、どのように社会に貢献できるか考え、実際に多数実施をした。	A	今年度は、FDCを更に活発にし、社会貢献度を高める。
	(5)防災	避難訓練の状況	避難訓練等の実施(年2回)	1回目は教室からの避難経路の確認を主として、2回目は迅速な行動を狙いとしたが、全般として整斉と実施できた。 分散で行い、緘黙での訓練ができた。	A	避難訓練を2回実施し、安全な避難方法を体得させるとともに、防災に対する関心・意識を高めさせる。
	(6)交通事故防止指導	通学の状況	通学路における歩行マナー、自転車の乗り方の指導と登下校時の教員による指導	自転車の交通反則通告制度の導入を控えてか、傘さし運転や二人乗りで指導を受けた生徒は減った。	B	交通マナーの指導徹底により、生徒の安全意識を高め、事故防止に取り組む。
	(7)生徒のマナー向上	挨拶等の状況	挨拶、言葉づかい、礼儀作法等基本的な躰事項の習慣化とHR単位のマナー指導教室の実施 建学の精神「愛と奉仕」のもと指導する。	挨拶、言葉づかい、礼儀作法等一部に不十分な生徒が見られたが、全体としては年々改善傾向にある。 生徒側からの挨拶が増えた。	A	繰り返し指導することによって、マナーの向上を図る。 教員が率先して見本を示す。
	(8)校舎の美化推進	清掃実施状況	学期末の大掃除の実施、美化コンクールの実施 隅から隅まできれいにする。	普段からしっかりと清掃された教室・トイレ等が多い中、共用場所は不十分であったのか、綿埃が見られた。	A	年3回美化週間を設けるとともに、美化コンクールの実施により清掃の徹底を図る。
3	(1)国際体験学習の円滑な実施	実施状況と成果	総合学習の時間を使った周到な準備と訪問国の高校生との交流 学習だけではなく楽しめる国際体験学習にする。	国際体験学習(2学年)を10月中旬、3回で実施 (ハワイ・シンガポール/マレーシア・ボストン/ニューヨーク)した。 各地で高校を訪問をし、現地生徒と交流し生徒の国際理解(異文化理解)促進をした。令和7年度はコロナも収束したため、従来通りに実施できた。10月に参加できなかったサッカー一部を対象に、2月にスペインへの国際体験学習を実施した。	A	一昨年再開した2年生対象の国際体験学習を、シンガポール・マレーシアとハワイの選択制、ボストン・ニューヨーク(一貫)で10月中旬に実施する予定である。
	(2)キャリア教育の推進	可能性の追求 各実施状況と人数	学力の向上だけでなく、卒業後の可能性を広げる力を身に付け、世界で活躍できる人材の育成	アクティブラーニング(体験)・パッシブラーニング(知識)をバランスよく取り入れた本校独自のキャリア教育を実施。 FDCで生徒自身が未来探求するとともに、どのように社会に貢献できるか考え、実際に多数実施をした。	B	より能動的な姿勢を持ち、個々の価値観で考え、学ぶことができるように思考・創造・判断力を養う。 FDCでは外部のコンテストに参加する。
4	(1)体育行事の充実	生徒の取り組み	体育祭の実施(6月)	特に熱中症対策として以前から暑熱順化を呼び掛けた。熱中症や大きなけがをする者はおらず、	B	熱中症の対策をしっかりと行って実施する。 細田学園の伝統を守る体育祭を実施する。 (天候に恵まれなかったが6月8日に実施)
	(2)各運動部の目標に応じた成績向上	全国・関東大会への出場、県大会上位入賞	優秀な選手の獲得・育成、練習環境の整備及び日常練習の積み上げによる粘り強い精神力の育成 応援も全校で頑張る	各部とも一定の成果を上げ、特にバレーボール部が全国総体、全日本選手権(春高)に出場した。また、サッカー一部は初の県ベスト4となった。 部活動への加入率も上昇している。	A	多くの生徒が運動部に所属し、健康で充実した高校生活を送れるような環境作りに努める。応援に力を入れる。
	(3)各文化部の活動や生徒会活動の充実	活動状況	活動を活発化させるとともに、発表の機会を多く設定 大会の出場を推奨する。	文化的行事や対外的な大会において、積極的な参加が見られた。 演劇部は関東大会で優秀賞に輝き、今年度(令和8年7月)に実施される全国大会に出場が決まった。	A	文化部や文化的行事において、活躍の場を更に拡大していく。演劇部に続き、他の部も成果を上げられるよう指導する。。
	(4)感染症・熱中症等の予防	発症者数	手洗い・うがいの徹底、こまめな給水、状況に適合した休息及び個人の衛生管理指導の促進	収束はしているが、引き続き感染対策に留意した。 放課後の部活動や体育行事だけでなく、体育をはじめとする授業、教室での活動において生徒の体調管理に留意した。	B	行動面の緩和後も引き続き、感染対策の習慣化及びこまめな給水等に留意するとともに、個人、家庭の衛生管理指導を徹底する。
	(5)急患発生時の対応	対応要領	主要施設内へのAEDの設置、AED等講習会の実施	教員を対象とした心肺蘇生法・AED操作法の理解に努めた。	B	心肺蘇生法・AED操作法講習会を検討する。 希望者対象で応急手当普及員の講習を行った。

学 校 関 係 者 評 価
(令和8年6月16日現在)
学校関係者の意見・要望・評価等
時間に余裕をもって、生徒を自宅から学校に送り出す等、保護者の協力が必要不可欠である。
学校の雰囲気がいいので転退学者も少ないのではないかと。
統一した指導を願う。 よき伝統を維持・継続して欲しい。
ボランティア活動や社会貢献にも及ぶところがいい。今後は更に楽しみな活動である。
学校での生徒の安全については、十分に配慮してもらいたい。普段から意識づけてほしい。
交通事故は死亡につながることもあるので、交通マナー指導の徹底を図ってもらいたい。
あいさつをする生徒が非常に多い。先生方もあいさつや声掛けが多い。全員ができるように根気よく指導してほしい。
校内がきれいで生徒も学習しやすい環境であると感じる。
現地での国際体験は生徒たちにとって貴重な経験となると思う。海外実施が行われることは異文化理解にもなるのでよい。生徒たちも楽しみにしている。情勢把握を含め安全に配慮を求めたい。
卒業後自分の判断と行動力でたくましく生きていく力を身につけて欲しいと願っている。
保護者も楽しみにしている行事である。 昨年度、そして今年度も実施できてよかった。 駐車場を確保してほしい。
全国大会レベルの大会に出場できる部活があるのは大変名誉なことである。強化指定部だけでなく各部の活躍を応援している。
学校の活性化のために、運動部と同様、演劇部のように全国大会に出場できるよう育成を目指してほしい。
コロナは収束しているが、引き続き手洗い、うがいを常態化してほしい。
応急処置で命を救われることがあるので、生徒用の講習会も実施できればよい。

令和7年度 細田学園中学校 学校自己評価システムシート（1/2）

目指す学校像	博く深い愛の心と、奉仕の精神を培い、勤勉で且つ努力を惜しまない習慣を身につけた誠実真摯な生徒を育成する。 併せて、学力の伸長と個性の啓発を図る。
重点目標 （番号）	1 現在の学力を最大限に伸ばすとともに、進学指導の充実を図る。 2 麗しく、健康で好ましい生活習慣を身に付けさせる。 3 異文化理解の促進と国際人としての資質を育成する。 4 頑健な身体と強靱な精神を育む。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割以上）

学校関係者評価（一同に会する意見交換等）	
（実施日）	令和8年7月7日
（出席者）	学校関係者評価委員3名 事務局（校長・教頭・事務長）3名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価（令和8年6月30日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	具体的方策の達成状況	達成度	令和8年度への課題及び改善策等
1	(1)年間行事予定の確実な実施	実施結果の状況	学力向上を目指した計画作成と周到な準備	年度当初に明示した年間行事予定に基づき、細部計画を作成した。収束してはいるが、コロナウイルス感染対策、またインフルエンザ感染対策に留意し、概ねできた。	B	更なる学力向上を目指し、課題等を分析し綿密な計画を作成するとともに、行事の精選を行う。
	(2)体系化されたコース別説明会の実施と進学指導	生徒の意欲 保護者の関心度向上	中高一貫校として、6年間を見通した体系的指導、LHR・総合を中心に利用した進学指導を学年に合った内容で実施する。	キャリア教育をコースに合わせて実施、自ら学ぶ姿勢をもち、社会の中で生きる力を身につけさせる指導ができた。	B	体系的・適時に進路ガイダンスを実施する。学習習熟度を確認する。学年を超えた取り組みを目指したい。
	(3)各学年の成長目標に合致した教育課程の編成	教科配分の状況	学力の向上はもちろん、人間性の向上も考慮に入れた教科科目の適切な配分	各学年に適した教育課程が編成できた。	A	各学年の特徴を更に生かした教育を提供する。
	(4)ICT機器を導入した最新の授業を展開する	授業展開要領	PC,タブレットを必要に応じて使用する。 共通テスト等の研究対策を以前からしているので思考・判断・表現力を身に付ける授業を展開する。	各教科ごとに、生徒のためになる取り組みを実施した。 生徒は学習への興味関心が強まった。	A	生徒が自ら学ぶ意識を持ち、意欲的に授業参加できるような指導を構築する。集中できない生徒を無くす。
	(5)家庭学習の習慣化	家庭学習の状況	各教科毎の課題付与と確認、dotsノートの添削をする。 小テストなど家庭学習の確認をし成績に大きく反映させる。	生徒の興味・関心を引き出す授業を展開し、家庭学習の意識を高めた。 課題量等は教科間で調整できた。	A	家庭学習は効果的に実施する。
	(6)学習成績の向上	定期考査結果 模試結果	研究授業の充実による授業力の向上と内容の改善、各教科間の連携強化。	各教科担当者の研究授業を数回実施し、改善点を指摘、問題点を各教科で共有した。その結果、生徒の意識を向上させ、成績不良者は少ない。	A	成績不良者を出さない。 令和8年度は皆無を目指す指導を考える。 3年生が後輩の良い見本となるようにする。
	(7)課外教育の充実	生徒の講座への取り組み	学校行事・校外学習の実施	授業と連動させ、効率よく進めることができた。	B	校外学習、学園祭で活躍する生徒を増やす。 FDCを通じ社会に貢献、発信できるようにする。
	(8)卒業生全員の進路決定	高等学校への進学 高等学校卒業後を踏まえての指導	担任と生徒・保護者との三者面談と進路指導の早期実施による高校卒業後を踏まえた進路先の意識づけをする。学年にあった指導をする。場合によっては個別指導を行う。	公立中学のレベルを超えている。内容は高校生に近い。 高校のトップクラスの進学実績を超えていくと考える。	A	各学年の特徴を生かした進路指導をする。 高校卒業後の進路選定を中学校在学中からきちんと考えさせ、安易に決めることのないよう指導する。

学 校 関 係 者 評 価
（令和8年7月7日現在）
学校関係者の意見・要望・評価等
生徒達のことを考え実施していた。引き続き、生徒の安全面を最優先し、充実した学校生活が送れるよう配慮して作成してほしい。
保護者会などで、生徒の学習状況が把握できてよかった。内容も昨年より細かく分析され、理解しやすかった。
高校生になるに向けての指導を考慮してほしい。また、その先の進路についても考えてほしい。
生徒が自ら積極的に学ぶ姿勢を持てるように魅力ある授業をお願いしたい。それとともに、生徒一人ひとり丁寧に対応してほしい。
家庭学習が定着してきた。まだ十分とは言えないが前向きな姿勢が見られるようになった。
成績不良者が少ないのは良い。また、定期考査の点数だけでなく、日頃の頑張りが平常点として評価されるのはよい。
これまでの学園祭は入場制限等があったが、保護者、小学生だけでなく、一般公開ができてよかった。工夫が凝らされ楽しかった。
将来を見据えた進路選定は生徒が自分で決めることはとても大事だが、保護者の考えも取り入れ、学校にアドバイスをお願いしたい。

令和7年度 細田学園中学校 学校自己評価システムシート（2/2）

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価（令和8年6月30日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	具体的方策の達成状況	達成度	令和8年度への課題及び改善策等
2	(1)遅刻防止	遅刻者数	主任による指導 通学路・校門指導の徹底 5分前行動の励行	全体的には前年より増加。ただし、生徒数の増加に比例したものであり、学年を超えて特定の生徒に偏りが見られるので、根気よく指導していくことが必要である。	B	改善が見られない一部の生徒に対する個別指導の徹底と家庭との連携を図る。
	(2)転学者の減少	転学者数	生徒の心情把握、適時適切な生活指導及びカウンセリングの充実と教員による自由面談	生徒数が増えたが、転学者は無いに等しい。	A	令和7年度と同様に実施する。
	(3)端正な身だしなみの徹底	服装点検結果	服装・頭髪指導の実施(学期1～2回)及び環境週間の設定(年2回)	概ね良好である。	B	家庭との連絡を密にして、全教員で指導を徹底する。統一した指導をする。
	(4)奉仕活動(ボランティア)の促進	奉仕活動の状況	学校説明会やオープンスクールなどの学校内で主に実施した。手伝い生徒をお願いして生徒が自主的に参加する。	多くの生徒がオープンスクールなど外部向けイベントにて自ら手伝い、参加していた。	A	生徒が自ら参加できるようにする。またその機会を増やしていく。
	(5)防災	避難訓練の状況	避難訓練等の実施(年2回)	1回目は教室からの避難経路の確認を主として、2回目は迅速な行動を狙いとしたが、全般として整斉と実施できた。	A	避難訓練を2回実施し、安全な避難方法を体得させるとともに、防災に対する関心・意識を高めさせる。
	(6)交通事故防止指導	通学の状況	通学路における歩行マナー、自転車の乗り方(ヘルメット着用も含む)の指導と登下校時の教員による指導	自転車通学者、自転車移動の際はヘルメット着用を守っている。交通マナーが向上した。	B	交通マナーの指導徹底により、生徒の安全意識を高め、事故防止に取り組む。
	(7)生徒のマナー向上	挨拶等の状況	挨拶、言葉づかい、礼儀作法等基本的な躰事項の習慣化とHR単位のマナー指導教室の実施 建学の精神「愛と奉仕」のもと指導する。	挨拶、言葉づかい、礼儀作法等一部に不十分な生徒が見られたが、学校からの指導で改善された。 生徒側からの挨拶が増えた。	A	繰り返し指導することによって、マナーの向上を図る。 教員が率先して見本を示す。
	(8)校舎の美化推進	清掃実施状況	学期末の大掃除の実施、美化コンクールの実施 隅から隅まできれいにする。	普段からしっかりと清掃された教室・トイレ等が多い中、不十分な共用場所があるのか綿埃が見られた。	B	年3回環境週間を設けるとともに、美化コンクールの実施により清掃の徹底を図る。
3	(1)留学、修学旅行の円滑な実施	実施状況と成果	総合学習の時間を使った周到な準備と訪問地の事前学習を徹底する。 学習だけではなく楽しめる修学旅行にする。 林間学校、フィールドワーク、オリエンテーション合宿 長期海外留学	短期留学(イングリッシュキャンプ)、オリエンテーション合宿、林間学校、フィールドワーク等、予定通り実施できた。 長期留学の選考は実施(試験、面接等)、中学3年生6名が留学した。	B	令和8年度も3年生を対象に、京都奈良への修学旅行を実施予定である。(既に実施) 宿泊行事やイングリッシュキャンプ、長期留学も実施予定である。
	(2)キャリア教育の推進	可能性の追求 各実施状況と人数	学力の向上だけでなく、卒業後の可能性を広げる力を身に付け、世界で活躍できる人材の育成	アクティブラーニング(体験)・パッシブラーニング(知識)をバランスよく取り入た本校独自のキャリア教育を実施。	B	より能動的な姿勢を持ち、個々の価値観で考え、学ぶことができるように思考・創造・判断力を養う。 知的好奇心を引き出すようにする。
4	(1)体育行事の充実	生徒の取り組み	体育祭の実施	コロナも収束し、体育祭を通常通り実施できた。	B	熱中症の対策のため11月へ時期を移す。 生徒の安全対策を第一に実施する。 細田学園の伝統を守る体育祭を実施する。
	(2)各運動部の目標に応じた成績向上	大会の出場、参加 練習の状況	練習環境の整備、及び日常からの練習の積み上げによる粘り強い精神力の育成をする。 応援も全校で頑張る	各部とも全力を尽くし、活動することができた。 部活動への加入率も上昇している。 生徒数も増え活発になってきた。	B	多くの生徒が運動部に所属し、健康で充実した学園生活を送れるような環境作りに努める。応援に力を入れる。
	(3)各文化部の活動や生徒会活動の充実	大会、展覧会、コンテストの出場、参加 練習の状況	活動を活発化させるとともに、発表の機会を多く設定 大会、展覧会、コンテストの出場、参加を推奨する。	文化的行事や対外的な大会において、積極的な参加が見られた。積極的に活動する部活が増えた。	A	文化部や文化的行事において、活躍の場を更に拡大していく。 吹奏楽部は強化指定部なので頑張してほしい。
	(4)感染症・熱中症等の予防	発症者数	手洗い・うがいの徹底、こまめな給水、状況に適合した休息及び個人の衛生管理指導の促進 コロナ感染対策ガイドラインをしっかりと守る。	引き続きコロナ・インフルエンザ感染対策の徹底をした。感染者は激減した。また、体育の授業をはじめ、部活動等において熱中症予防に留意した。	B	引き続き、感染対策の習慣化及びこまめな給水等に留意するとともに、個人、家庭の衛生管理指導を徹底する。
	(5)急患発生時の対応	対応要領	主要施設内へのAEDの設置、AED等講習会の実施	教員を対象とした心肺蘇生法・AED操作法の理解に努めた。	B	心肺蘇生法・AED操作法講習会を検討する。 希望者対象で応急手当普及員の講習を行う。

学 校 関 係 者 評 価
(令和8年7月7日現在)
学校関係者の意見・要望・評価等
保護者が、時間に余裕をもって生徒を自宅から学校に送り出す等、保護者の協力が必要不可欠である。
学校の雰囲気がいいので転学者がほばいないのでは。環境が良好であることの証明にもなる。
統一した指導を願う。よき伝統を維持・継続してほしい。
ボランティア活動に留まらないところがいい。 人のためにが、あたり前になっているのはいい。
学校での生徒の安全については、十分に配慮してもらいたい。普段から意識づけてほしい。
交通事故は死亡につながることもあるので、交通マナー指導の徹底を図ってもらいたい。
あいさつをする生徒が非常に多い。全員ができるように根気よく指導してほしい。
校内がきれいである。新校舎もとても良い。 生徒も学習しやすい環境であると感じる。
行事が予定通り実施されたのでよかった。 長期留学者が多いということは、保護者、本人の意識が高いのだと思う。長期留学中の学力の遅れがないようにしてほしい。
これからの時代を、自分の判断と行動力でたくましく生きていく力を身に付けてほしいと願っている。
保護者も楽しみにしている行事である。 今年度も実施(6月)できてよかった。
選択部活と放課後部活があるのはいい。 生徒たちは意欲的に取り組んでいる。
学校の活性化のために、運動部と同様、全国大会に出場できるような文化部の育成を目指してほしい。
コロナは収束しているが、手洗い、うがいを常態化してほしい。
応急処置で命を救われることがあるので、生徒用の講習会も実施できればよい。